

吉野諒三 データ科学研究系・教授、及び調査科学研究センター・センター長

1. 「日本人の国民性」調査 ---歴史と実践と理論の三位一体---

統計数理研究所では、1953年以来、半世紀にわたり、成人の男女を対象に「日本人の国民性」に関する調査を続けている。この調査の先駆として、戦後(1948年)にSCAP/GHQの指示で、統計数理研究所、国立教育研修所、あるいは後の国立国語研究所のスタッフとなる研究者たちを含め、日本全国の社会学、心理学、言語学、その他の関連分野の研究者が集まり遂行された「日本人の読み書き能力調査」がある。これは現実の課題解決のために各分野の人々が集合した、学際的事業であった。

この成果を受け、開発された実践的標本抽出法を活用し、昭和28年には「日本人の国民性」調査が開始される。これは、さらに米国のGSSなど、諸外国での同様の時系的調査開始の刺激となっていく。戦時中にできた研究所が次々と廃止されていく中で、統計数理研究所(開所1944年)は、戦後民主主義の科学的基盤を支える使命を担い、新たに出発したのであった。

「日本人の国民性」調査は、今日では、内閣府政府広報室の「社会意識に関する世論調査」、NHKの「生活時間調査」と共に日本の三大標本調査として有名になった。さらに、米国のGeneral Social Surveyや「世界価値観調査、ヨーロッパのEurobarometerなど、世界の各国の大規模な調査や国際調査を開始させる刺激となったと言われている。

2. 「意識の国際比較調査」 ---アジア・太平洋価値観国際比較調査へ---

我々の研究は、1971年頃から、国民性をより深く考察する目的で日本以外に住む日本人・日系人を初め、他の国の人々との比較調査へと拡張されてきた。

初めからいきなり全く異なる国々を比較しても、我々のような意識調査では計量的に意味のある比較は出来ない。言語や民族の源など、何らかの重要な共通点がある国々を比較し、似ている点、異なる点を判明させ、その程度を測ることによって、初めて統計的「比較」の意味がある。この比較の環を徐々に繋ぐことによって、比較の連鎖を拡張し、やがてはグローバルな比較も可能になろう。我々は、この方針の下で、国際比較を進め、「連鎖的調査分析(Cultural Linkage Analysis, CLA)」と呼ぶ方法論を展開し、さらに「文化多様体解析Cultural Manifold Analysis, CULMAN」を発展させ、「データの科学」と称する統計哲学を計量的文明論(林, 2000; 吉野, 2001, 吉野他, 2010)のために試行錯誤しているところである。近年は、科学研究費・基盤研究S「アジア・太平洋価値観国際比較」の総合解析が進行中である。

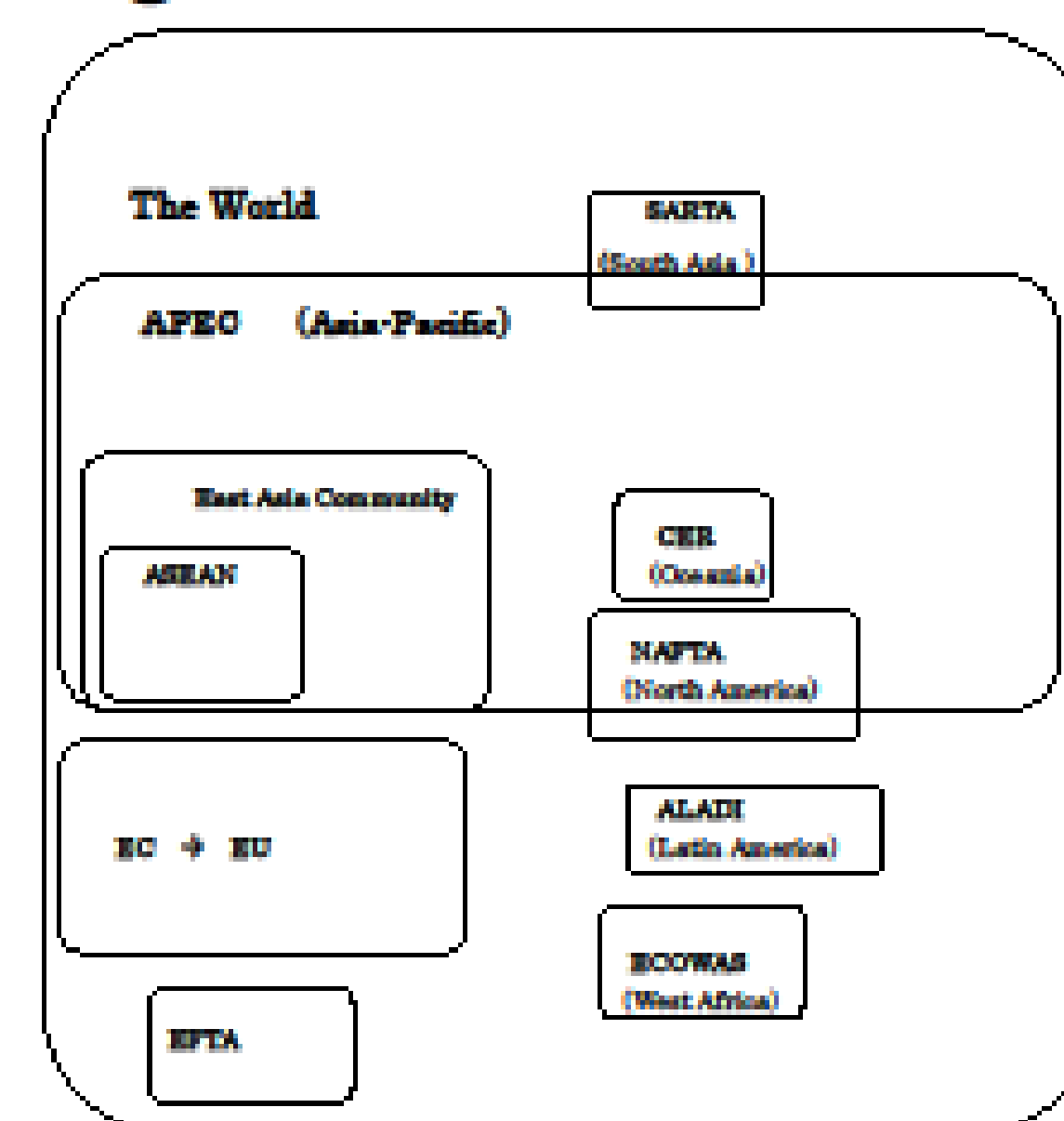
Table 1. Partial List of Past Surveys by ISM.

|   |   |
|---|---|
| 1953 - present Japanese National Character Survey (every five years)  |   |
| Japanese Americans in Hawaii  |   |
| 1978  | Honolulu Residents, Americans in the Mainland             |
| 1983  | Honolulu Residents  |
| 1988  | Honolulu Residents  |
| 1987-1993 Seven Country Survey  |   |
| 1987  | Britain, Germany & France                                 |
| 1988  | Americans in the mainland of U.S.A, the Japanese in Japan |
| 1992  | Italy   |
| 1993  | The Netherlands   |
| Recent Overseas Japanese Survey   |   |
| 1991  | Japanese Brazilians in Brazil                             |
| 1998  | Japanese ancestry Americans in the U.S. West Coast.       |
| 1999  | Honolulu Residents in Hawaii                              |
| 2002-2005 East Asia Values Survey   |   |
| (Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, & Singapore)                                 |   |
| 2004-2009 Asia-Pacific Values Survey  |   |
| (Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, USA, Singapore, Australia & India)           |   |
| 2010-2014 Asia-Pacific Values Survey  |   |
| (Japan, China [Beijing, Shanghai], Hong Kong, Taiwan, South Korea, USA, Singapore, Australia, India, & Vietnam) |   |

参考

吉野諒三 (2014). 「幸福度」は政策科学のために測定可能か? 計画行政 37(2),35-40.  
 朴堯星・吉野諒三(2015). お化け調査から見える価値観の多様性—「アジア太平洋国際価値観調査」の5カ国比較から—. 統計数理.  
 吉野諒三(2015). 意識の国際比較可能性の追求のための「文化多様体解析」 統計数理,63(2), 203-228.  
 Yoshino, R. (2015) Trust of Nations: looking for more universal values for interpersonal and international relationships. Behaviormetrika,42,2,131-166.  
 吉野諒三・芝井清久・二階堂晃祐(2015). アジア・太平洋価値観国際比較--- 文化多様体の統計科学的解析---総合報告書. 統計数理研究所・調査研究レポートNo.117.

Fig. 6 A Manifold of Local Communities



Some pairs of these local communities may overlap each other and the total set may make a hierarchy as a global manifold. In order to realize a steady peaceful and prosperous development, we may need a set of "soft" regulations to connect pairs of communities, rather than a single restrictive global standard.